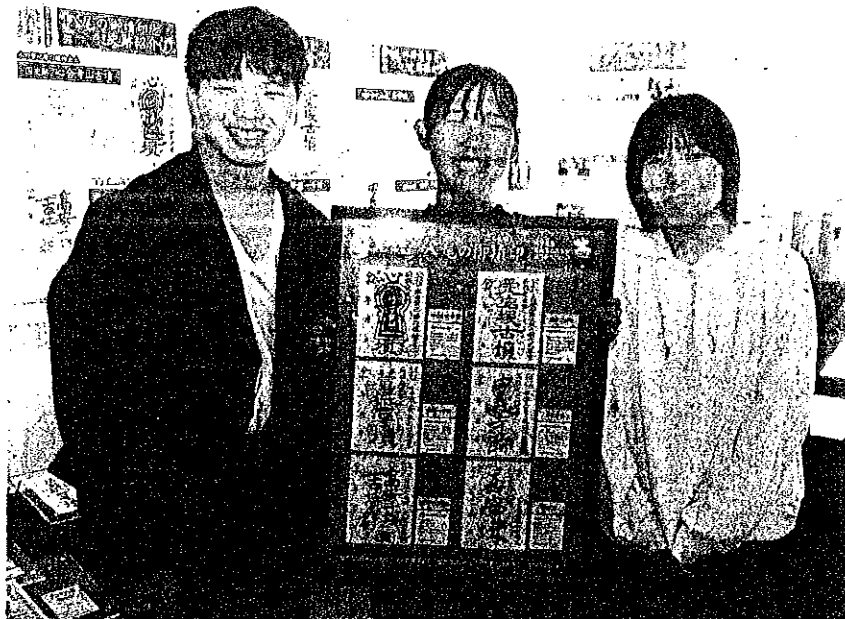


揮毫した八尾高校書道部の（左から）羽田さん、宮脇さん、赤川さん

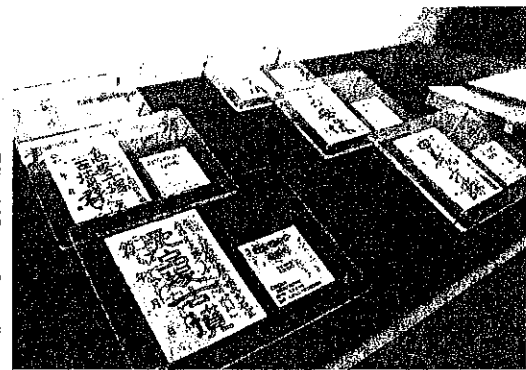


### 八尾の古墳学習館 販売

## 高校書道部の生徒 揮毫

八尾市大竹の市立しおんじやま古墳学習館は今秋、八尾の古墳を訪れた記念の印「御墳印」の販売を始めた。中河内地域最大の前方後円墳「心合寺山古墳」などの史跡をアピールするのが目的。寺社の「御朱印」が人気を集める中、古墳ブームに乗った「御墳印」も広がっており、府内では初めての試みだという。（藤岡一樹）

# 御朱印人気 御墳印続け



八尾高校書道部の生徒が揮毫した御墳印（いずれも八尾市で）

国史跡の心合寺山古墳は、古墳時代中期に造られたとみられ、全長160メートルと中河内地域で最大の規模。また、市内には奈良時代に女帝・称徳天皇と僧・道鏡が建立したとされる由義寺跡（国史跡）など多くの史跡がある。こうした遺構に親しんでもらおうと、同館の福田和浩館長（49）が八尾の六つの史跡の「御墳印」作成を企画した。府内では、天皇や皇族の陵墓に参拝した記念に押す印「御陵印」はあるが、御墳印は初めてだという。

文字は福田館長の依頼を受け、地元の府立八尾高校書道部の生徒が揮毫した。2、3年生の部員6人が筆をとり、4～5月に制作。部員は実際に古墳を見学し、その規模の大きさから、かつて権勢を誇った豪族のイメージを膨らませた。羽田大祐さん（2年）は6世紀頃に造られたとされ、無数の小型の円墳が並ぶ「高安千塚古墳群」を書いた。行書体で、文字のバランスや配置を工夫。部長の赤川優果さん（2年）は矢を入れる武器をかたどった埴輪が出土した「萱振一号墳」をしたためた。角張った埴輪の形を楷書体で表現した。宮脇汐璃さん（2年）は、高安山頂付近にあったと推定され、壬申の乱（672年）の戦いの舞台となった幻の山城「高安城」を流れるような草書体で揮毫した。生徒たちが描いた文字に、福田館長が各古墳の特徴を表すデザインを組み合わせ、御墳印を6月に完成させた。赤川さんは、「これまで興味がなかったけれど、地元の魅力な古墳があることを知った。たくさんの人に見てほしい」と期待を寄せた。10月26日から1枚300円で販売を開始。御墳印を入手するには、現地を訪れて写真を撮影することなどが条件となっている。福田館長は「八尾の古墳を実際に見て体感して、ファンになってもらえるとうれしい」と話している。問い合わせは同館（072・941・3114）。